

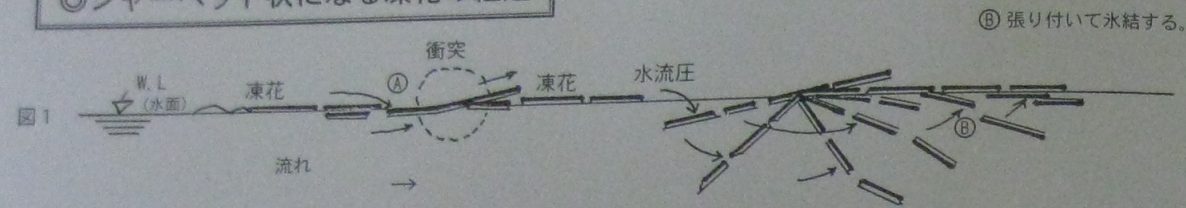
アーティストから見た一寸の疑問から10年 自然観察

權威に捕われない

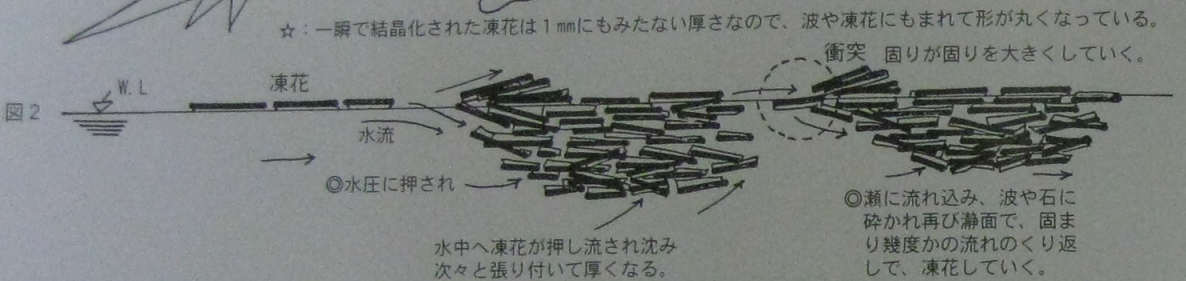
新発見 冬の風物詩 流凍花 ル・サロン永久会員 きりえ画家 鈴木文二

氷点下の静水面上下2cm空間で渦・波・流れの後押しで一瞬に発生する氷の花 流凍花

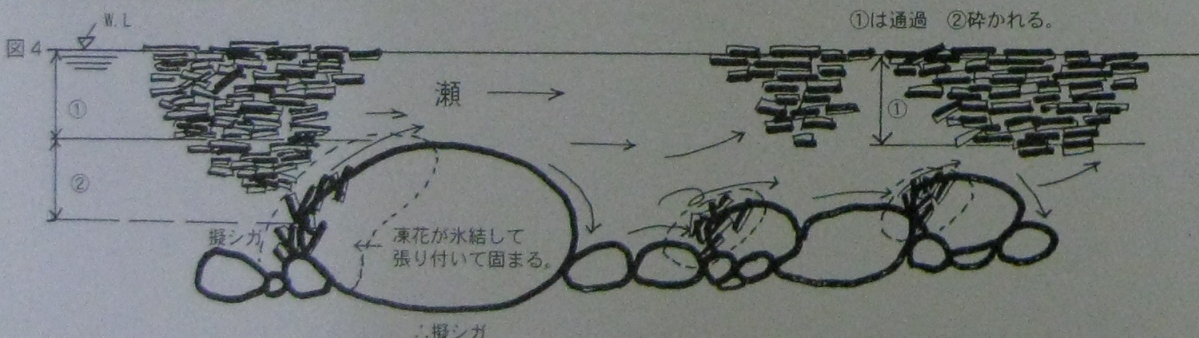
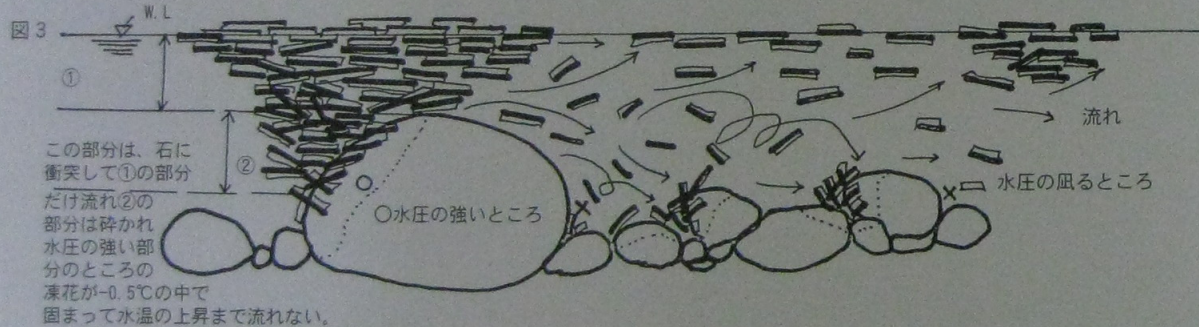
◎シャーベット状になる凍花の経過



発生したばかりの凍花  
水圧に押され◎に張り付いてシャーベット状の水の固まりに育つ。  
∴流れの中で、次から次へとくり返される。



☆：一瞬で結晶化された凍花は1mmにも満たない厚さなので、波や凍花にもまれて形が丸くなっている。  
☆：凍花と凍花が結び付いたり、衝突したりしてシャーベット状の固まりを作り、2~5cmの厚さになるには、発生真っ盛りで1~3時間かけて育っていく。



現在まで、発生する現象を誤認して、石に張り付いた氷りが浮いて流れると定説化していた。凍花が②に張り付いて発生したことを正しく理解すべきである。

凍花が発生しなければ、擬は存在しないことになる。擬が存在することは、凍花が作った証である。

∴水面2cmの空間

川は流れのため水結できない。

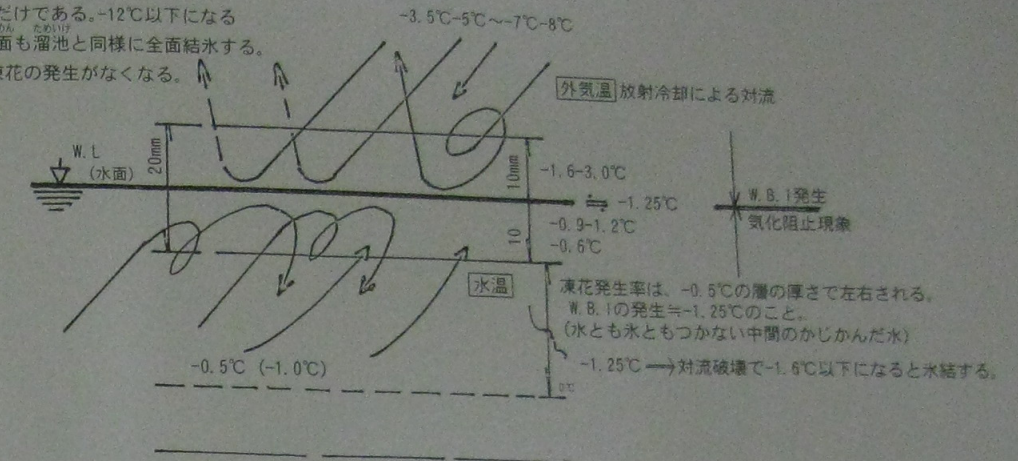
∴振動波が後押ししなければ

流るだけである。-12℃以下になる

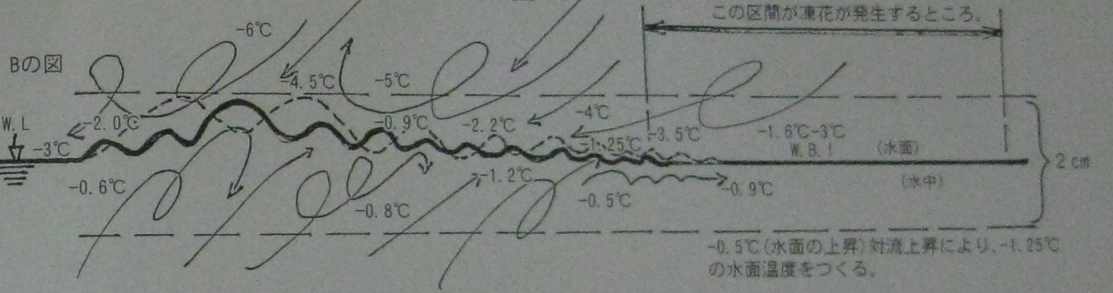
と静水面も溜池と同様に全面結氷する。

∴ので、凍花の発生がなくなる。

Aの図



∴振動波による水面の対流破壊



※氷化した水温氷の種の発生-0.5℃~-0.8℃-1℃ 上昇対流現象により、水中でも氷結化する可能な水温のこと。

水中からの上昇流波により水面が波立ち氷結の後押しをうけ外気温が波にからみつき結晶が促進する。

水面2cmの空間は波・渦・流れによって一瞬の10秒で凍花が発生誕生する。凍花はBの図で発生をくりかえす。

◎なま殺しの氷点下の気温のため冬の風物詩となる。

静の水面は、1m4秒の流れであるため氷結したいのであるが氷点下10度以下を久慈川でもとめることは、全面氷結になってしまうので、冬の風物詩の観賞ができなくなる。静の水面は、氷結を後押しする波・渦・流れの力で、凍花(氷の花:水花)として生まれ発生している。

